

令和6年4月3日

令和6年度 学校経営方針

練馬区立南が丘小学校長 江原幸一

1 学校経営の基本理念

「子どもたち一人一人の人権や個性が尊重され、大切にされる学校」

「学校は子どもたちにとって、一番安全で安心できる場所である」

2 学校教育目標

けやきの子

「かしこく」

- ・自分の思いや考えをもって学び合える子
- ・自ら課題を見つけ、主体的に解決できる子

◎「やさしく」

- ・自他の生命を尊重し、互いの違いやよさを認め合える子
- ・相手の立場に立って考え、思いやりのある子

「たくましく」

- ・いろいろな運動に親しみ、すすんで体を鍛える子
- ・失敗を恐れず、最後まであきらめずやり遂げる子

上記の学校教育目標を達成するために、以下を経営の方針とする。

3 学校経営方針(6点)

(1) 人権教育並びに豊かな人間性の教育の推進

教職員一人一人の人権感覚を豊かにするとともに全教育活動を通して人権教育を推進し、児童が安心できる居場所と活躍の場を与え、自尊感情や自己肯定感を育む。さらに、一人一人の日々の様子に目を配り、いじめや不登校・児童虐待(ヤングケアラー含む)等の問題の未然防止・早期発見に努める。

(2) 学力と体力の定着と向上

子供たちの学ぶ意欲を大切にし、学力を向上させるために校内研究の推進を中心として教師の授業力向上に努める。ICT 機器を適切に活用するとともに、学習の成果を的確にとらえた指導と評価の一体化を図る。また、体力テストの結果を生かし、体育授業の質の向上を図り、体育的行事や日常的な運動習慣の定着・体力の向上を図る。

(3) 学校としての組織力の向上

職員一人一人が各職層における職責を全うし、組織として職務にあたる。校内研究を柱として「授業力向上」の視点を常にもち、日々切磋琢磨する組織を構築する。報・連・相を意識し、管理職並びに教職員間の連携を強固なものとする。特に管理職には小さなことでも「報・連・相」を行うように心がける。また、学校の窓口は副校長なので、まずは副校長への情報提供を確実にを行う。

また、子供たちの問題や課題を担任が一人で抱え込むことの無いよう、学年・学校全体・外部人材(スクールカウンセラー、教育委員会、学校評議員、警察、区委嘱の弁護士など)と協力して問題や課題を解決していくことが必要である。

(4) 個に応じた支援と指導の充実

子供たち一人一人の個性や特性を的確にとらえ、学年・専科等と指導上必要な情報を適切に共有し、そのよさを伸ばしていくための、個に応じた支援と指導を充実させる。また、算数の習熟度別指導では習熟具合に応じたグループ編成や教材・題材を工夫たり、学年の実態に応じて教科交換指導を行ったりするなど、学級や担任の枠を超えて学年全体で子供たちを見ていくようにする。

(5) 働き方改革の推進

「ライフ・ワーク・バランス」を見直し、私生活と仕事の調和や時間的な効率の向上に着目して日々の職務に当たるようにする。そのためにも計画的に余裕をもって取り組み、一つ一つの作業を丁寧に行い、ミスを少なくすることで時間的なロスを減らすことができる。また、職員間のコミュニケーションを活発にとることで互いの風通しを良くし、気持ちよく働ける職場を目指す。そのためにも、「あいさつ」「気遣い」「お互いさまの精神」「温かい言葉づかい」等を意識して過ごすようにする。さらに、困り事や悩み事を一人で抱え込まないためにも、早めに管理職や同僚、スクールカウンセラー等に相談する。

(6) 服務事故の防止

教職員の服務事故について、特に最近「セクハラや性暴力」や「交通事故」に関する服務事故が多くなっている。服務事故を防止することは、子供たちを守ることはもとより、自分自身や家族を守ることにつながる。私たち教育公務員はその職責を十分に理解し、倫理観や規範意識等をより一層高め、服務の厳正に努めることが必要である。服務事故に至ると予見される行為を行わず、自己を律して職務に当たる。